

## 長野県食と農業農村振興審議会南信州地区部会議事録

1 日時 令和6年7月3日(水) 10:00 から 12:00 まで

2 場所 長野県飯田合同庁舎 講堂

### 3 出席委員

熊谷宗明（長野県農業経営者協会下伊那支部長）  
伊藤友子（株式会社七久里農園）  
伊藤祐哉（松川町若手農業者の会若武者）  
高田清人（南信州農業委員会協議会長）  
横井きよ子（長野県農業委員会女性協議会下伊那支部長）  
塩澤昇（みなみ信州農業協同組合常務理事） 部会長  
武田登（長野県小渋川土地改良区理事長）  
小澤めぐみ（飯田下伊那栄養教諭・学校栄養職員部会顧問）  
北澤弓子（株式会社豊かな丘加工部）  
塩沢健一（飯田市産業経済部農業課長）

### 4 次第

- (1) 開会（南信州農業農村支援センター所長 小林健次）
- (2) あいさつ（南信州地域振興局長 岩下秀樹）
- (3) 第4期長野県食と農業農村振興計画の概要について
- (4) 会議事項（議長：部会長 塩澤昇）
  - ア 令和5年度南信州地域計画の取組実績について
  - イ 令和6年度南信州地域計画の実行計画について
  - ウ 少子化・人口減少対策について
  - エ 長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言
  - オ 少子化・人口減少対策に関する意見・提言
- (5) 閉会（南信州農業農村支援センター所長 小林健次）

### 5 長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言

#### 【熊谷宗明委員】

達成指標「I ターン就農者数」の令和6年度計画については、令和5年度実績よりも低く設定されている。新規就農者の増加や農地の有効活用は喫緊の課題のため、それに対応して再設定すべきではないか。令和6年度実行計画の重点取組3の「信州の環境にやさしい農産物認証取得件数（新規3件）」は、令和5年度取組実績（新規4件）よりも低くなっている。松川町では学校給食で有機野菜を活用しているが、環境にやさしい農業は今後ますます重要と考えるため、再設定をすべきではないか。

重点取組4の地域計画策定については、農業者が集まって話し合い、決めていくことですが、思うように進まないケースもあるため、それをコーディネートする専門家が必要。国の事業等を活用し、積極的に専門家を派遣してほしい。

（小林所長）

達成指標や実行計画については、単年度の実績が計画を上回ればよいとの考えはありますが、実績に対して、次年度は低い数値目標を設定しているという考えではなく、令和9年の目標達成に向けて、上を目指して取り組んでいく計画とご理解をいただきたい。

地域計画の策定に係る話し合いへの専門家派遣については、活用する事業等を検討してまいりたい。

#### 【伊藤友子委員】

達成指標「学校給食における県産食材の利用割合」の令和5年度実績が計画を下回った原因が物価高騰で他県産の使用が増えたことについて、行政が補助金により県内産農産物の利用を促進することで、県内農業者は潤い、子どもたちは地域食材を食べることができ、また、計画も達成できるのではないか。今後検討してほしい。

重点取組1の就農促進について、就農から稼げる農業ができるまでの流れを体系化したものを情報発信することができれば、都市部から農業をやりたい人を呼び込むことができるのではないかと。

重点取組3の環境にやさしい農産物認証に関して、作付農地の移動がある場合、取得するのが難しい。また、有機農産物のための肥料や農薬は値段が高い。このため、当農園では、それに準じた肥料や農薬を使用しているが、それを評価する手段がほしい。

重点取組3の気候変動に対応した技術導入について、ハウストマトでの対策を検討してほしい。

(小林所長)

学校給食への支援については、一つの取組にとどまらず、組み合わせて目標達成をめざしたい。

また、Iターン就農の流れについては、ご指摘のとおりですので、希望者にわかりやすいモデルの情報提供を検討したい。

ハウスの高温対策については、状況を伺う中で、個別に対応したい。

#### 【伊藤祐哉委員】

人口減少が始まっている状況で、重点取組1において、新規就農者を増やすことは必要だが、一方で現状の農業者が生産性を上げ、生産量を維持することも重要。気象変動等に対応し安定生産するには、施設が必要だが、資材も工賃も上がっている上に、経験の浅い、若い農業者にそれを建てる、あるいは修理する技術はないため、そのノウハウを習得できる機会への支援をお願いしたい。

人口減少が進めば、空き家は増えると予想される。また、農業での人材確保も課題となるため、この空き家を活用して、滞在型観光の取組や田舎の魅力を発信することで、都市部から人材を呼び込み、多様な支え手を確保して行ったらどうか。

(小林所長)

自らハウスを建てたり、修理したりすることで、生産コストを下げ、経営を安定させる取組は重要。その技術を習得する勉強会等については、若手の普及員とともに進めていきたい。

空き家の活用による担い手、支え手の確保は、重要な視点であり、検討していきたい。

#### 【高田清人委員】

重点取組4の地域計画について、地域の話し合いは、思うように進まない状況がある中で、ある程度は行政主導で進め、我々農業委員も参加し、既存の会議や書面も活用して、できる限りの完成度で作成することも重要と考える。引き続き、関係者の協力をお願いしたい。

重点取組3のきのこ振興について、当地域はきのこの生産が盛んであり、コロナ禍においては、行政や団体の支援により効率的な冷凍機の更新等の投資を行い、コスト削減に取り組んだところですが、生産資材等のコストは上がっている中で、思うように販売価格は上がっておらず、経営は厳しい状況にある。また、農業用ドローンでの課題で、使用できる農薬や肥料が限られていることがあるため、行政からの働きかけをお願いしたい。

本日の提言や意見を、自身の農業委員活動にも活かしていきたい。

(小林所長)

地域計画の策定については、県支援チームを中心に、引き続き支援をしてまいりたい。また、策定がゴールではなくスタートであるため、計画の実現に向け、農地の有効利用が図られるよう支援して行きたい。

きこの振興については、経営に係る生産技術向上やコスト削減と一緒に検討していきたい。  
農業用ドローンの農薬、肥料については、いろんな場面で働きかけをしていきたい。

#### 【横井きよ子委員】

泰阜村は、小さく、傾斜が急で、条件の悪い農地が多い。それでも、先人たちが開墾して大切に活用してきた農地のため、高齢農業者が耕作して、なんとか維持している状況。何年か後には、維持できなくなることが想定される。若い人たちにぜひやってほしい。農地だけではなく、地域の中の木も大木になって、管理が必要になってきている。

以前、転作で市田柿を振興したが、排水対策がうまくいかず断念した。そのあと、何を作付ればよいか相談しているところ。

(小林所長)

新規就農者の育成、確保は、進めていくとして、中山間地域においては、大規模、専業は困難であるため、兼業や半農半X等も含めて、地域の農業、農地を維持していくことができるよう支援を検討していきたい。

#### 【武田登委員】

重点取組1の新規就農に関して、近くに、新規就農に向けて研修している若者がいる。新規就農者や認定農業者に対しては、少額で農機具の貸し出しができるようになっているが、研修生まで対象かどうか。きめ細かな支援について検討をお願いしたい。

重点取組2の気候変動への対応について、自身のぶどう栽培で、近年は6月に房焼けがあり、今後が心配。一方で、中川村でマイヤーレモン栽培の勉強会があり、大勢が関心を寄せているため、新たな作物の検討もすべきではないか。

重点取組3の環境にやさしい農業について、現在、肥料等資材が高い中で、飯田下伊那地域の堆肥の有効利用への助成を進めたらどうか。

重点取組4の農業水利施設について、竜東一貫水路や竜西一貫水路の補修等が計画的に行えるようお願いしたい。また、豊かな農村、生態系を維持するため、多面的機能支払交付金は重要であるが、物価高騰の中で、交付単価の増額をお願いしたい。

重点取組6の食育について、小中学校の頃から自分で育て、収穫して、調理して食べることが重要と考える。

(小林所長)

新規就農者への対応については、できるだけ寄り添い、経営発展支援事業等の活用も検討する中で支援していきたい。

県の試験場においては、地球温暖化対策の試験を実施しており、情報があればお伝えしてまいりたい。また、柑橘類の栽培も、試験場とともに可能性を検討していきたい。

肥料の代替えとしての堆肥の利用については、環境にやさしい農業を進める中で、進めてまいりたい。

小学校、中学校の頃からの食育、体験が重要だと多くのご意見をいただいている。市田柿を含めた地域農産物での食育を進めていきたい。

(農地整備課 小林課長)

農業水利施設の補修等については、現在進行中のものもあるが、どんな課題があるかお聞きする中

で、適切な補助事業等を検討してまいりたい。

多面的機能支払いについては、活動組織や市町村の意見も伺い、県を通じて国へ要望したい。

#### 【小澤めぐみ委員】

達成指標の「学校給食における県産食材の利用割合」の結果が、計画を下回っていることについて、6月の第3週と11月の第3週の2週間の限られた期間での調査のため、年によっては作柄に左右されて端境期にあたってしまうことがある。また、最近では、これまで使用できていた地元産の豚肉が入手困難になった。豆腐は原材料が外国産なので、カウントできない。大きな給食施設での規格や調理時間の課題もある。そんな中で、できる限り地元のものを使用するという意識を持って、使用したときには子どもたちに伝えることも行っており、今後も引き続き頑張っていきたい。

重点取組6の栄養教諭への地域農産物の情報提供については、昨年から実施いただき大変ありがたい。本年度は、伝統野菜のポスターの提供があり、子どもたちが知る良い機会になっている。また、部会で、伝統野菜、有機野菜、地域食材、郷土食等をキーワードにレシピ集を作成して配信することを予定している。地元農産物の活用の幅を広げ、子どもたちへ伝えていきたい。

重点取組1の農業の担い手について、中学2年生は職場体験学習があり、保育園や福祉施設に行くところが多いが、農業でも良いのではないかと。将来を考え始める時期でもあり、農業が将来の選択肢のひとつになるのではないかと。

(小林所長)

地域農産物の情報提供については、引き続き実施していきたい。また、中学生の職場体験については、良いアイデアであり、所内で検討させていただきたい。

#### 【北澤弓子委員】

長年、豊丘の加工所に携わっており、村内の果物や野菜の委託加工、加工品の学校給食への提供、飯田かぶ菜の漬物等に取り組んできた。特に保育園での五平餅づくりは、若い親と子が一緒に楽しめる食育となっていたが、コロナ禍以降できなくなってしまい残念。

また、最近では、タケノコの委託加工を行っており、北信の学校給食で利用するものも扱っているが、消費期限に課題がある。

重点取組1の農業の担い手について、現在、村内で行われている取組が良いと感じている。何年前に、管理できなくなった園地を活用しようと、定年帰農者と専業農家が共同でももの栽培を始めたが、成園となり、今は、新規就農者が研修を受けながら徐々に継承することになっている。他の管理できなくなったぶどう畑も、その後の栽培者が見つかるまでの間、周辺の農家が一時的な管理することで維持している事例がある。

(小林所長)

加工所での学校給食や食育の取組については、コロナも収束しつつある中で、ぜひ引き続き取り組んでいただきたい。

タケノコの加工の課題については、個別に対応をさせていただきたい。

新規就農者の確保と果樹園地の継承については、中間的な管理をする非常に良い取組であり、他地域への紹介等させていただきたい。

#### 【塩澤健一委員】

重点取組1の「皆が憧れる」について、重要な視点と感じている。現在、市産業経済部の活性化プログラムを作成しているが、農業者へのヒアリングにおいて、担い手を確保して行くためには、農業者のかっこいい、身なり、言動、意識を見せていくことが必要だとの意見があった。また、他のブランド牛よりも高く取引される南信州牛のセリのように、南信州の農畜産物は質が高いという部分をわかっ

ていただく機会も必要と考える。

重点取組3の環境にやさしい農業について、市では本年度から、県の認証よりハードルを下げた3割減の独自認証により、段階的な環境にやさしい農業を進めている。認証農産物については、流通上の課題もあるが、保育園や学校給食への提供を目指して取り組んでいる。

重点取組6の地域農畜産物の利用促進については、南信州地域地産地消協議会において、まちの八百屋システムという実証事業を行っている。旅館ホテル・料理店が地産地消の割合を高めて、旅行者に南信州の食を提供できるよう、農家が農産物の情報を提供し、システム内で直接商談することができる。市としてもこれら地産地消の取組を進めていきたい。

(小林所長)

南信州の農産物の質の高さを多くの皆さんに知ってもらおうということはとても大切であり、その方法について、今後考えていきたい。

また、まちの八百屋システムでの地産地消については、質の高い農産物を旅行者に提供する観光面での取組でもあり、情報交換しながら一緒に検討させていただきたい。

## 6 少子化・人口減少対策に係る意見・提言

### 【熊谷宗明委員】

我々農業者が「皆が憧れる農業」を目指して、後ろ姿を見せていくことが、新規就農者の確保や人口減少に歯止めをかけることに繋がる。その新規就農者が、空き家を活用し、そこで結婚し、家族をつくとといったことの積み重ねが人口増加に繋がるのではないかと考える。

また、川上村のように女性が生き活きと暮らせる村づくり、嫁に選ばれる村づくりの取組や、岡山県奈義町の財政支援だけではない、町全体で少子化問題に向き合う機運や取組が参考になる。

達成指標で「都市農村交流人口」20万人の目標があるが、中山間地が多い南信州では、大企業の進出は期待できないが、観光で訪れた女性が地域を気に入って、就農に向けて今研修を受けている事例もあるので、我々が自信をもって農業をやっていくことで、人も集まってくるのではないかと考える。

### 【伊藤友子委員】

自分が新規就農したときに、保育園の時間に制限があり、日中の暑い時間帯で働かなければならなかったり、少しの間気軽に子どもを預けられる地域のつながりがなかったりで、子育てが大変でした。また、病児保育ができる病院や出産できる病院が増えると良いと考えます。よそから来たお嫁さんが、孤立せず助けてもらえる、安心して出産、子育てできる体制づくりが必要ではないかと考える。

また、農業高校の生徒が、夏休みに小学生に教える農業体験を行うことができれば、高校生、小学生両方にとってメリットがあり、地域農業の活性化や担い手の育成につながるのではないかと考える。

### 【高田清人委員】

人口減少対策は、農業分野だけで考えるべきではない。農業は一つの産業であり、社会全体で総合的に考えるべき。また、農業者の結婚について考えたとき、農業は家族経営で農業者と結婚した女性は農業をしなければならないという考えでは、農村の人口減少を止めることはできない。男女共同参画社会にもつながることだが、女性が今までの仕事を続けながら暮らせる農村、雇用や法人化による農業経営が必要。

(小林所長)

ありがとうございました。いただきましたご意見については、県民会議へ繋げてまいります。

(岩下局長)

今後、県として、地域、産業界、多方面の皆様と一緒に行動しなければならないということで、県民会議において戦略を作成していくため、本日、皆様からご意見、ご提言をいただきました。ありがとうございました。

自らの体験に基づくご意見で非常に大切だと感じました。人口減少は、すぐに回復できるものではなく、おそらくこれから10年20年はこの流れは変わらない。そういう中で人口が減っても、いかに地域の勢いを止めないようにしていくか。女性が働くときに子供をどうしたらいいのか。保育を良くしていく。保育だけで解決できないので地域の近所のおじいちゃんおばあちゃんに面倒を見てもらうことも必要。そういったことを、県全体の戦略の中にも組み込めればと考えています。また、これ以外にもご意見あればいただければ受け付けたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

ありがとうございました。